

令和3年度 菊池市立泗水西小学校 校内研究推進計画

I 研究主題の概要

1 研究主題

読むことにおける基礎基本の向上を図る取組

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

PISA2018においては、読解力について、前回調査と比較して平均得点が有意に低下していると分析がなされている。また、小学校では、平成29年に学習指導要領が全面改訂された。今回の改訂における基本的な考え方の一つに、「知識及び技能の習得と思考力、判断力、表現力等の育成のバランスを重視する平成20年改定の学習指導要領の枠組みや教育内容を維持した上で、知識の理解の質をさらに高め、確かな学力を育成すること。」とある。さらに、育成を目指す資質・能力が①「知識及び技能」、②「思考力、判断力、表現力等」、③「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で整理された。これら資質・能力を育成する上で、前提となるのが知識及び技能の習得である。知識及び技能を習得することで、それらを使って思考したり判断したり表現したりすることができる。確かな知識及び技能の習得を目指す上で、各教科の基盤となる国語科における基礎基本の向上が必要だと考え、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、『持つ・解く・超える』で成長し続ける子ども』である。

「持つ」とは、「夢を持つ、目標・目的を持つ、課題に気づく力を持つ」である。「解く」とは、「夢をかなえる努力をする、目標・目的を達成する、課題を解決する」である。「超える」とは、「更に一歩前進する、自分に負けない」である。これは、「生きる力」を育成するために大切となる、主体的・対話的で深い学びの実現に必要な「習得・活用・探求」のプロセスに通ずるものがあるといえる。その中で、課題や目標、努力などを言葉にして認識していくことは必要不可欠である。言葉の力を育む基盤となる国語科、さらには読むことにおける基礎基本の向上を図ることで、本校教育目標が具現化されると考え、本主題を設定した。

(3) 児童の実態から

国語	3年			4年						5年						6年						
	R3・4月			R2・12月			R3・4月			R2・12月			R3・4月			R2・12月			R3・4月			
	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	自校	目標値	比較	
総合	68.3	71.3	-3.0	57.7	62.7	-5.0	67.3	68.5	-1.2	60.7	64.8	-4.1	64.1	65.6	-1.5	62.9	66.9	-4.0	60.4	61.3	-0.9	
領域	言葉の理解や扱い方	74.4	78.3	-3.9	64.0	71.2	-7.2	71.0	72.5	-1.5	76.7	74.0	2.7	68.9	68.5	0.4	62.5	67.9	-5.4	64.3	63.6	0.7
	情報の扱い方	33.3	45.0	-11.7	43.3	51.7	-8.4	46.7	51.7	-5.0	44.4	50.0	-5.6	44.4	53.3	-8.9	25.0	42.5	-17.5	57.1	46.7	10.4
	我が国の言語文化			0.0			0.0	90.0	80.0	10.0	77.8	85.0	-7.2	77.8	75.0	2.8			0.0	35.7	50.0	-14.3
	話す・聞く	64.0	67.0	-3.0	57.5	73.8	-16.3	73.3	75.0	-1.7	55.6	59.0	-3.4	53.3	57.0	-3.7	66.7	66.7	0.0	64.3	70.0	-5.7
	書くこと	56.7	70.0	-13.3	48.0	50.0	-2.0	55.0	54.2	0.8	47.2	56.3	-9.1	66.7	58.8	7.9	71.4	69.2	2.2	51.2	56.7	-5.5
読むこと	68.3	67.5	0.8	55.0	53.3	1.7	63.3	67.5	-4.2	46.3	55.0	-8.7	59.3	67.5	-8.2	58.3	64.2	-5.9	61.9	58.3	3.6	
基・礎	知識・技能	64.2	70.0	-5.8	59.2	65.8	-6.6	67.1	68.6	-1.5	68.1	68.3	-0.2	64.3	65.7	-1.4	57.1	64.3	-7.2	61.0	59.3	1.7
	思考・表現・判断	64.3	67.9	-3.6	53.3	57.7	-4.4	62.0	63.7	-1.7	49.6	56.7	-7.1	59.3	61.7	-2.4	65.2	66.7	-1.5	58.1	60.0	-1.9
	主体的な態度	48.0	64.0	-16.0	46.0	55.0	-9.0	62.0	61.0	1.0	40.0	49.0	-9.0	57.8	56.0	1.8	62.9	63.0	-0.1	52.9	57.0	-4.1
基礎	76.3	78.8	-2.5	65.3	67.9	-2.6	70.0	72.5	-2.5	66.7	68.9	-2.2	67.3	69.7	-2.4	67.9	72.2	-4.3	62.7	65.3	-2.6	
活用	52.5	56.3	-3.8	43.3	52.8	-9.5	61.3	59.4	1.9	47.2	55.6	-8.4	56.9	56.3	0.6	51.8	55.0	-3.2	55.4	52.5	2.9	

【資料1：R2・3年度実施 市・県学調結果（国語）】

目標値を下回る領域や観点が多い。特に注目すべきは、観点別に見た場合「思考力・判断力・表現力等」において目標値を大きく下回っている点である。思考力・判断力・表現力等の指導事項を身に付けさせることが必要である。即ち、国語科の読むことにおける基礎基本の向上が本校の喫緊の課題であると考え、本主題を設定した。

3 研究主題の分析

(1) 主題について

「基礎」とは、学びの土台となる読み・書き・計算の基礎的な力のこととする。

「基本」とは、小学校学習指導要領解説「国語編」に明記されている。読むことに関する指導事項に国語に関する用語と方法を加えたものとする。

児童にとっては「何を学ぶのか」、教師にとっては「何を指導するのか」を明確にすることが、基礎基本向上の第一歩になると考える。その上で、読むことにおける基礎基本を向上させていくことが本研究の目指すところである。

II 研究の基本構想

1 研究の仮説と視点

(1) 仮説

具体化した指導事項をもとに「課題設定」「課題解決」「振り返り」を工夫することで、基礎基本の向上が見られるだろう。

上記の仮説を検証するために、以下の5つの視点を設けることとした。

- ①指導事項と用語・方法の明確化
- ②学びがつながる「課題設定」
- ③学びを広げ深める「課題解決」
- ④学びを確かなものにする「振り返り」
- ⑤目的のあるICT活用

2 研究の内容

(1) 視点①について

読むことに関する指導事項と用語と方法を単元・教材レベルで具体化して、学習構想に位置付けることで確実な習得が図れる。単元のどこで用語や方法を習得させていくのかを明確にしていく。次に、それを単元計画の中に位置付けていく。そうすることで、基礎基本を確実に習得させていく。

をしよう。	付けて、中心人物の心の変化を考えること。
①中心人物 ②場面 ③山場	①中心人物の心の変化を捉える
指導計画と評価計画(10時間取扱い 本時7/10)	
学習活動(「問い」を設定しても可)	用語・方法の習得
○教師が作成したスピーチの例を読み、その内容を考える活動とおして、中心人物の心の変化を読むという課題意識をもつ。	★【感①】(ノート・発言) ○「二分の一人式スピーチ」の例を読んで、何が書かれているのか明らかにし、読みの視点を考えようとしている。

【資料2：習得を位置付けた単元構想】

(2) 視点②について

単元の導入において、何を学ぶのか指導事項について児童と共有し、読むことの目的をもたせる言語活動と出会わせることで、主体的に学ぶ意欲を高めることができる。そこで、単元を通した学習課題は、基本的に「指導事項」と「言語活動」を組み合わせたものとする。さらに、一単位時間における課題とも関連させていくことで、児童の学ぶ意欲を継続させる。これが学びにつながる「課題設定」とする。



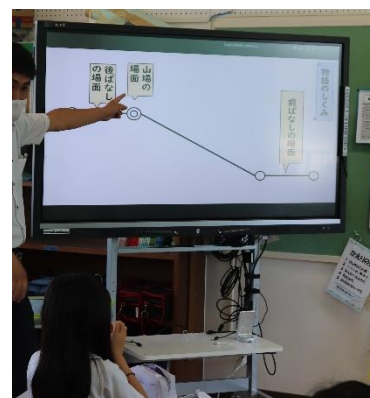
【資料3：手紙を活用した単元の導入】

(3) 視点③について

設定した課題に対して解決を図る中で、学びを広げ深めていくための手立てが必要である。

例えば，単元を通した学習課題を解決するために，児童は読み物教材を読んでいく中で，様々な思考操作を行っている。その思考操作を言語化し，児童自身に認知させていくことで，次の学習で生かすことができるようにすることが大切だと考える。

また，構造読み，形象読み，吟味読みと読みを進めていく三読法を取り入れたり，全体共有の後に再度自分の読みを整理し納得解を考える時間を確保したりする手立てが考えられる。



【資料4：構造読みの取組例】

(4) 視点④について

学びを確かなものにするためには，振り返りによる学びの見つめ直しが必要である。熊本の学び推進プランを参考にめあてとまとめ，振り返りについて整理し，それぞれの役割を明確にした上で実践する。

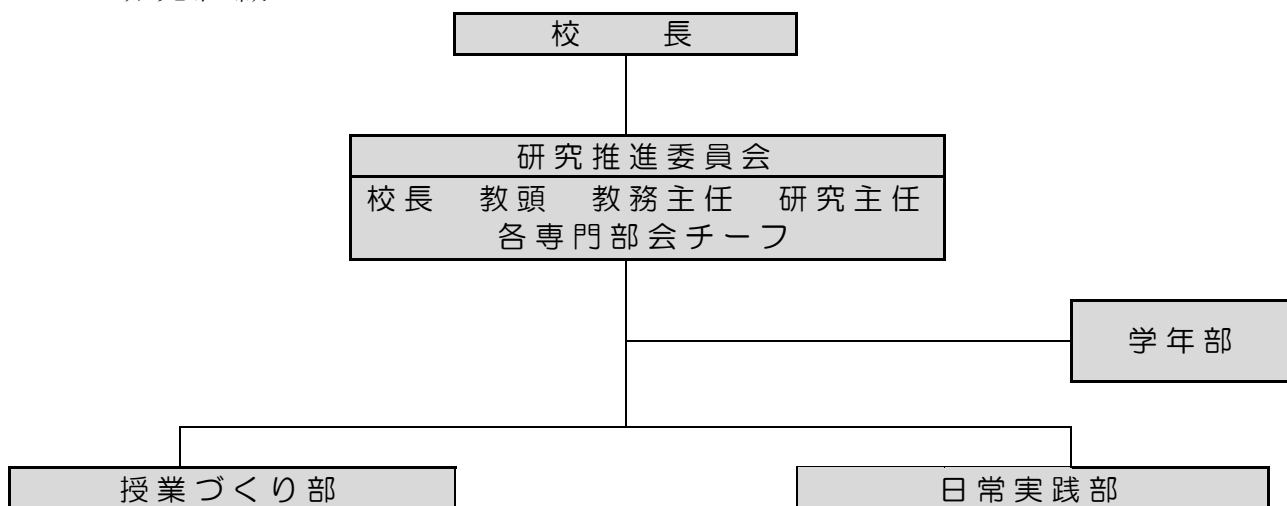
	めあて・まとめ	振り返り
概念	子供が学習した内容を確実に身に付けることができるように，何を学んだのかを明らかにする活動。	「学び」の価値や成果を自覚したり，「次の学び」に向かう問いや課題を明らかにし，学習意欲を高めたりするために，子供たちが自らの学習を振り返る活動。
なぜ必要か	子供が学習課題で分かったことを確認し，集団全体で共有したり，何を学んだかを実感したりして，深い理解につなげたりするため。	「何ができるようになったのか」「何ができなかったのか」を子供たちに自覚させることで，次の学習や実生活につなぐため。
内容	①本研究の「基本」に関すること（指導事項・用語・方法） ②教材の内容に関すること	単元を通した学習課題に対して「今できていること」「まだできていないこと」を振り返る。

また，単元の終末には，本単元で学んだ指導事項と用語・方法について振り返りを行うことで，学びを確かなものにできるようにする。

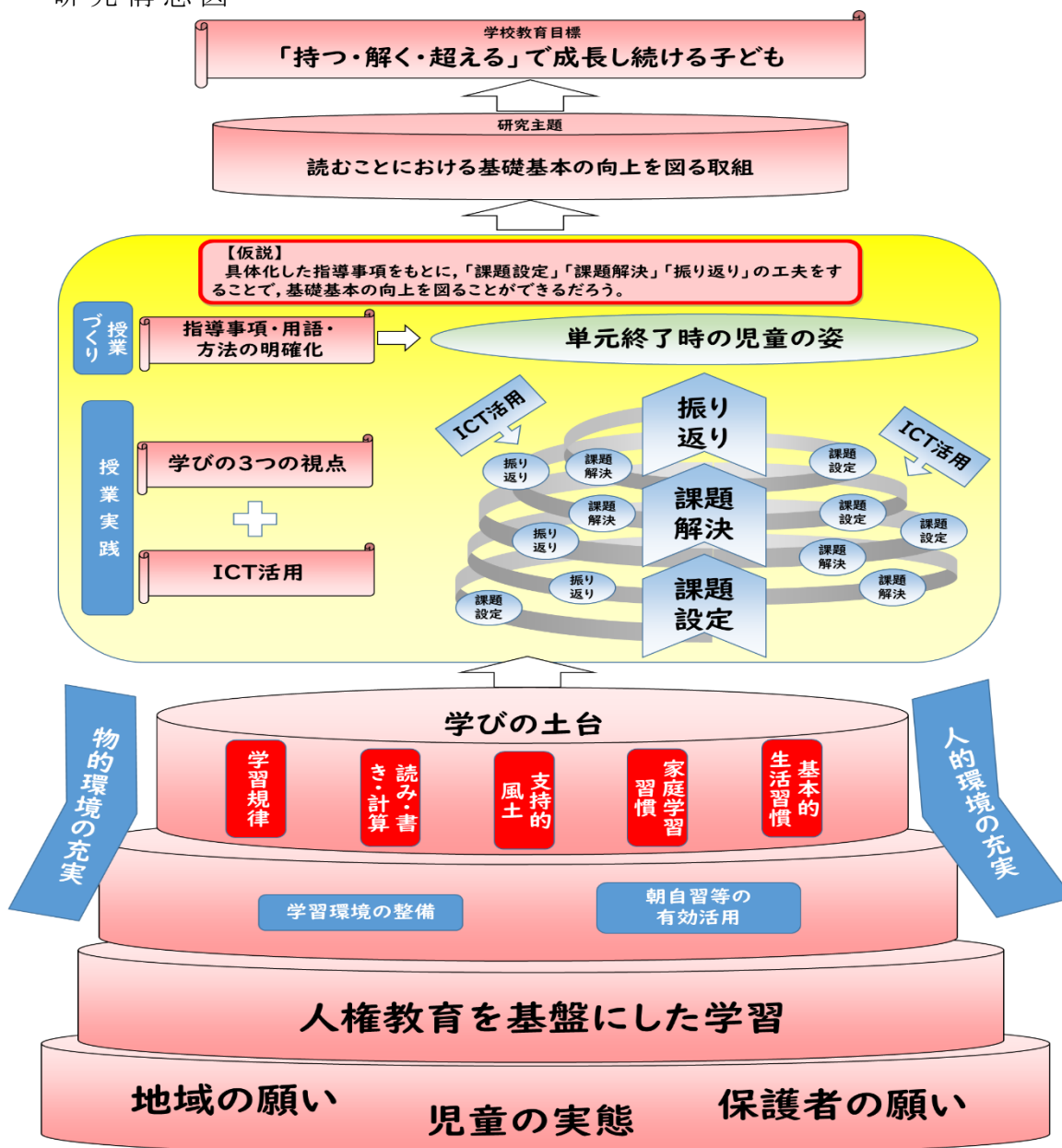
(5) 視点⑤について

電子黒板や児童用タブレット等の ICT 機器を活用する。何のために ICT 機器を活用するのか，その目的を明確にすることが大切である。実践を積み重ね，活用方法や活用場面ごとに整理分類していくことで，今後のさらなる活用につなげていきたい。

3 研究組織



4 研究構想図



Ⅲ 校内研修年間計画

回	月	日	曜	研究	修養	行事
1	4	14	水	研究主題・仮説について	校内研修について	8日始業式 9日入学式
2		28	水	共通実践事項について検討	×	17日授業参観等 20日～家庭訪問
3	5	19	水	共通実践事項について確認		6・7日梅関係 22日運動会準備
4		26	水	×	「I'm possible」に関する研修	23日運動会 27日全学調
5	6	2	水	専門部会	×	1日スポーツテスト 6日ミニバレー
6		9	水	専門部会からの提案		12日田植え 14日プール開き
7		23	水	提案授業・理論研	×	23日童話発表会 24日授業参観・懇談会
8		30	水	人権学習 事前研	×	
9	7	7	水	人権学習 模擬授業	×	13日肥後っ子教室 15日水泳大会
10		14	水	人権学習 授業研究会	×	21日前期前半終了
夏休み期間は別途計画						
11	9	1	水	大研① 4年	×	9日1・2年移動教室 10日3・4年移動教室 15・16日集団宿泊教室 28日オープンスクール
12		8	水	事前研②		
13		22	水	大研② 6年	×	
14		29	水	事前研③		
15	10	6	水	大研③ 5年	×	1日稲刈り・食育授業 5日給食試食会 8日前期終業式 24日～修学旅行
16		27	水	事前研④		
17	11	10	水	大研④ 3年 校内研修推進事業	×	2日グランドゴルフ 20日学習発表会 30日持久走大会
18		24	水	事前研⑤		
19	12	1	水	大研⑤ 1年	×	1日県学調 19日餅つき 24日後期前半終了
20		8	水	学校論文作成		
21		22	水	人権レポート作成		
22	1	12	水	人権レポート報告①		7日後期後半開始 25日6年3校合同学習会 28日オープンスクール
23		26	水	人権レポート報告②		
24	2	2	水	大研（理科）		15日6年恵楓園 17日新入児体験 25日授業参観
25		9	水	県学調結果分析		
26	3	9	水	特別支援学級授業研		4日歓迎遠足 23日卒業証書授与式 24日修了式
27		16	水	1年間のまとめ		